



国立大学法人 福島大学
共生システム理工学類

VOL. 23
2016.9

後援会だより

ごあいさつ

福島大学共生システム理工学類長 二見 亮弘

後援会の皆様には学生の諸活動に対して多大なご支援を頂いており、感謝申し上げます。

今回は、共生システム理工学類で昨今の社会的要請に応えるために進められている、いくつかの代表的な取り組みについて紹介させていただきます。

まず、文部科学省の「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」や「国際原子力人材イニシアティブ事業」に採択されて実施中の6件があります。これらの事業に関わって、国内外の研究フィールドに向かう機会を得た学類生・大学院生も増えてきています。

(1) マルチフェーズ型研究教育による分析技術者人材育成と廃炉措置を支援加速する難分析核種の即応的計測法の実用化に関する研究開発(代表:高貝慶隆准教授)

(2) 廃止措置のための格納容器・建屋等信頼性維持と廃棄物処理・処分に関する基盤研究および中核人材育成プログラム(東北大学から小沢喜仁教授に再委託)

(3) 遠隔水中活動機器の要素技術開発と人材育成プログラムの作成(東京大学から高橋隆行教授に再委託)

(4) 原発事故に対応した教育行政・教育現場におけるリスク管理・リスク教育とグローバル人材育成(代表:山口克彦教授)

(5) 発電所隣接サイト外領域における放射性核種の環境動態特性に基づくサイト内放射性核種イベント

リ評価に関する研究(JAEAから難波謙二教授に再委託)

(6) 廃止措置への取組を当該地域として継続的に支えていくための人材育成事業(代表:山口克彦教授)
-- (1)~(5)の分野以外の学生にも対応できる広範な教育プログラム構築。

次に、再生可能エネルギー寄附講座の設置についてお知らせします。福島県は2011年6月25日に東日本大震災復興構想会議を開催し「福島県を再生可能エネルギーの先駆けの地とする」ことを明言するなど、原子力に依存しない安全・安心で持続的に発展可能な社会づくりが地域で求められています。

そしてこの度、「一般財団法人ふくしま未来研究会」及び「福島県建設業協会県北支部」からの資金提供により、共生システム理工学類に「再生可能エネルギー寄附講座」が設置されました。研究分野は、太陽光発電システム、風力発電システム、地中熱利用システム、バイオマス発電システムの4分野です。再生可能エネルギーに関する人材育成と併せて、県の研究機関や産総研福島再生可能エネルギー研究所などと連携した技術開発、地域のエネルギー産業のさらなる発展を目指しています。大学院の再生可能エネルギー分野における教育や、全学類生の教養教育への貢献も期待されています。

後援会の皆様におかれましては、本学類のこれら特徴的な教育・研究の取り組みにもより一層のご理解とご支援を下さいますよう、よろしくお願いいたします。

「保護者のための就職セミナー」開催のお知らせ

平成28年10月29日(土) 13時~14時 福島大学共通講義棟L-4にて

「大学生の就職事情と家族のかかわり方」と題し、キャリア研究部門の五十嵐敦教授が講演いたします。詳しくは別紙の参加申込書をご覧ください。

参加
無料

一年生紹介

Aグループ

内海 哲史

今年度の第1学年Aクラスは、男子17名女子5名です。Aクラスの教養演習Ⅰでは、「論文・レポートの書き方」を学習しております。月曜日5時限目の授業ですが、毎時間出席率は非常に高く、とても真面目な学生ばかりです。サークル活動をしている学生も多く、活発です。中には、新しいサークルを結成しようという意欲的な学生もいます。学生たちの今後がとても楽しみです。学生たちの成長を温かく見守ってくださいますよう、お願い致します。



Bグループ

大山 大

今年のBグループは、全国各地から集った22の瑞々しい個性の集合体です。入学当初に比べると、皆さんだいぶ大学生らしくなってきました。グループごとの教養演習は「大学生活に慣れる」が基本テーマでしたので、私たちは“偏愛マップ”を利用した濃密な自己紹介(自己アピール?)を行ったり、救命WEB講習および実技講習を受講して救命技能の向上に努めたりしました。今後もいろいろなことに積極的にチャレンジして欲しいと願っています。

Cグループ

大橋 弘範

Cグループは男子17名、女子5名の22名で構成されています。日本の大学教育の最新のプログラムを取り入れて、「私にとっての学び」に焦点をあてて自己紹介に絡めて発表を行いました。ここでは「傾聴」という概念を勉強し実践できるようになりました。また、大学で初めて出されるレポートについて、その仕組みと書き方について勉強しました。「教養演習Ⅰ」最終回ではIグループと合同で懇談会形式でクラス交流を行い、立食パーティー形式での振る舞いを勉強する、なんてこともやっております。



一年生紹介

Dグループ

高原 円

前期では、大学で学ぶということはどういうことを常に意識させながら、適切なマナーを身につけることを目標としました。実家暮らしの学生も、一人暮らしを始めた学生も、ひとりひとりが環境の変化と向き合いながら、懸命に新生活に適応していている様子が見て取れました。夏休み明けて後期には、それぞれの興味に従って調べたことをまとめて書いたり、発表したりします。科学的・クリティカルな視点を発揮して、遠慮なく活発な議論が行われることを期待しております。



Eグループ

董 彦文

教養演習Eクラスは男子17名、女子5名で、福島県出身者がわずか8名で、ベトナムからの留学生1名を含めて県外出身者が多数占めています。前期には学年共通プログラムの他に、ネットショッピング、SNS、電子メールなどの利活用に関する注意事項と基本マナーを調べて発表をしました。後期にはお金持になる方法をテーマとして、理工系学生の学習と今後の職業選択・起業などについて調べて、関連知識を勉強していきます。ギョーザパーティーも定期的に行われます。



Fグループ

後藤 忍

Fグループは、中国からの留学生1名を含む男性17名、女性4名の計21名です。前期は、グループ内で親交を深めること、探求心を養うことを主な目的として、活動を行いました。純粋な知的好奇心に基づく探求方法について学ぶため、外国の科学的検証バラエティ番組を視聴しました。また、社会的要請の高いテーマとして、再生可能エネルギーについて学ぶとともに、エコステーションに位置づけられているJR福島駅を訪問し、太陽光発電パネルや地中熱ヒートポンプなどの設備を見学しました。



一年生紹介

Gグループ

筒井 雄二

入学式当日、緊張感マックスの自己紹介から4か月。早くも前期の授業が終わりを迎えます。新入生とよぶ時期は過ぎたようです。高校までと違い、90分という長い授業、クラスルームがなく、自分の居場所が定まらない毎日、教授という肩書の、これまで遭遇したことのない人種。大学がどんなところなのか、少しずつわかかってきたのが、この4か月だったと思います。ときどき入学したときの初心を思い出し、後期も頑張してほしいと思います。



Hグループ

筧 宗徳

Hクラスは、男性17名、女性4名の計21名で、福島県外の出身者が半数以上です。「教養演習I」では、コミュニケーション力、論理的思考力を養うためディベートを行いました。ディベートは初めての学生が多く、ディベートの意義やルール説明を行い、1グループ5名に分かれ身近な話題をテーマについてグループディスカッションをして討論会を行いました。充実した大学生活を送れるよう、サポートさせていただきたいと思います。



Iグループ

吉田 龍平

Iグループは、男子学生17名、女子学生4名の計21名です。福島県出身が半数、他県では宮城・栃木・茨城が多いです。教養演習Iでは、Cグループと共通の課題「私にとっての学び」のプレゼンを行いました。なぜ大学に来たのかを考え、目的意識を持った生活を送れるように指導しています。教養演習IIでは、各自の興味のある分野をさらに掘り下げ、卒業研究を見据えた技術の習得を目指していきます。



学生生活支援便り

共生システム理工学類 学生生活委員会

紙面を拝借いたしまして、後援会の皆さまに理工学類の学生の動向、学生生活上の注意などをお知らせしております。

【新入生へのガイダンス】

1年生の必修科目である「教養演習」は、高校におけるホームルームのような性格の授業です。基本的には、9つのグループに分かれて各グループアドバイザー(クラス担任)が講義を行うのですが、学生生活委員会(高校の生徒指導部に似た組織)ではこの授業時間を数回分お借りして、学生生活を送る上で参考となる様々なガイダンスを実施しました。例えば、学外から警察署の方や消費生活センター

の方をお招きし、生活上のトラブル等の紹介やその対処方法についてお話いただきました。また、学内の臨床心理を専門とする先生方からメンタルヘルスに関するお話もいただきました。他にも、勉学等に必須の施設である附属図書館に関する詳しい説明もいただき、新入生にとって学生生活を送る上で有益な情報が得られたものと思います。

平成27年度 成績優秀者表彰

Congratulations!

1年	2年	3年	4年
大藤 弘登	深谷智亜稀	柳田 知美	柳沼 貴寛
岩崎 直也	元村 隼登	尾形 洋昭	高橋 香澄
新井 俊貴	遠藤 大介	櫻井 貴将	山野 一騎
立花 隼一	大内 一馬	霜山 翼	関根 康平
本田 理樹	野上 和幹	阿部 未姫	ロウ シホウ
安達 翔	佐々木滉平	大泉健太郎	加藤 光
渡邊 幹夫	高橋 里沙	東條 豊	大島 涼
齋藤 亮太	藤澤ひかる	佐藤紗亜耶	伊藤 千尋
岡本 紗季	續橋 和樹	中島 孝明	宗像 愛
佐々木望有	中村 駿介	齋藤 洋介	阿部 良祐
			新井 貴裕
			五賀 翔太
			小沼 秀人
			高木 勇人
			照沼 大誠
			新山 昌悟
			柳沼 良祈

【学生交流会と学業成績優秀者の表彰】

今年も恒例の学生交流会が5月25日に開催されました。この交流会は、学生どうしや教員と学生との交流を図るために、学生主導で行われるものです。交流会の冒頭、前年度の学業成績優秀者の表彰が行われ、各学年の成績上位者に対して、二見学類長から賞状と副賞(図書カード)が授与されました。表彰終了後は、参加者がいくつかのテーブルに分かれ、立食形式で食事を楽しみながら歓談して

いる姿が数多く見受けられました。歓談の合間には様々なクイズや体力勝負のゲームなども行われ、参加学生は日頃あまり接する機会のない教員との交流を大いに楽しんだ様子でした。

最後に、これらの企画に対しては後援会から多大なるご支援をいただいております。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

Campus Life Gallery



Aグループ JR福島駅訪問



8月6日
サイエンス屋台村



8月7日
オープンキャンパス





平成27年度の 卒業生・修了生の進路状況と 平成28年度の 就職活動状況等について



共生システム理工学類 就職支援委員会 委員長

平成27年度の福島大学の進路状況は、表1の通りです。現在の学群学類制になって以降最高の就職率であった昨年(96.7%)をさらに上回り、全体として97.3%、理工学類としては昨年度と同じく95.6%の就職率となりました。以下では、共生システム理工学類卒業生および大学院修了生の進路状況と今年度の就職活動状況等についてご報告致します。

表1 平成27年度の福島大学の進路状況(単位:人)

学類等 進路状況	人間 発達	行政 政策	経済 経営	現代 教養	共生 理工	全体
卒業生	281	227	244	46	161	959
就職者	234	191	218	33	108	784
進学者等	21	6	5	1	40	73
その他	26	30	21	12	13	102
就職率	99.6%	96.5%	97.3%	91.7%	95.6%	97.3%

1. 卒業生・修了生の進路状況

過去3年間の理工学類卒業生の進路状況を表2に示します。業種としては、製造業、情報通信業が多く、次いで卸・小売業といった傾向が続いています。また、公務員・教員も一定の割合を占めています。公務員については、公的な仕事のやりがいの他、安定志向や地元に残りたいという気持ちの表れと考えられ、福島大学全体としても多くなっています。教員については、福島県からも理数教員の担い手として期待されている面があります。

都道府県別では、福島県内が52%と約半数を占めています。県外で出身者が多い宮城、山形、栃木、茨城の隣接県を含めると74%となります。東京、埼玉、神奈川が19%で、これらで9割以上を占めています。

一方で、大学院進学者が36名(うち他大学や他研究科6名)と、60名の定員に対して少ない状況が続いています。理工系の場合、高度な専門的知識を必要とするケースも

表2 理工学類生の進路状況(単位:人)

過去3年の進路状況	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
卒業生	167	169	161	
就職者(a)	110	108	108	
業種別 就職者内訳	農・漁・鉱業			
	建設業	6	1	2
	製造業	11	19	20
	電気・ガス・水道業	4	2	1
	情報通信業	21	19	20
	運輸業、郵便業	4	2	3
	卸・小売業	10	9	8
	金融業	6	3	2
	保険業	2	1	1
	不動産業、物品賃貸業	1	3	3
	宿泊業、飲食サービス業	1	2	
	教育・学習支援業	2		2
	医療、福祉	1	1	1
	複合サービス業	3	1	3
	サービス業	6	6	5
	国家公務員	1	7	5
	地方公務員	20	26	23
	教員	8	6	9
自営業	3			
進学者等	39	44	40	
その他	18	17	13	
その他内訳	未定者(b)	6	5	5
	公務員等希望者	9	4	8
	有職者			
	その他	3	8	
就職率	94.8%	95.6%	95.6%	

就職率=就職者(a)/就職希望者【就職者(a)+未定者(b)】

多いため、進学という選択肢も念頭において進路を決定してほしいと思います。大学院では、ティーチング・アシスタント(TA)や奨学金など経済的なサポートもありますので、保護者の方々からのご理解とご協力を賜れば幸いです。

大学院博士前期課程修了者の進路状況を表3に示しま

す。平成27年度の就職率は88.2%で、過去最高だった前年度の97.4%から約9ポイント減となり、平成24年度(86.1%)並みとなりました。平成27年度は修了者が少なかったこともあり、変動の範囲内とも言えますが、就職率が向上するように、今後の就職支援にも引き続き力を入れていきたいと考えています。

表3 大学院博士前期課程修了者の進路状況(単位:人)

過去3年の進路状況	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
修了者	40	45	24	
就職者(a)	36	37	15	
業 種 別 就 業 者 内 訳	農・漁・鉱業	1	1	
	建設業	1	2	
	製造業	11	14	7
	電気・ガス・水道業			
	情報通信業	5	4	1
	運輸業、郵便業	2	3	
	卸・小売業		3	
	金融業			
	保険業	1		
	不動産業、物品賃貸業	1		
	宿泊業、飲食サービス業			
	教育・学習支援業		1	
	医療、福祉			
	複合サービス業	1		1
	サービス業	4	6	4
	国家公務員			
	地方公務員	5	1	1
	教員	4	2	1
	自営業			
	進学者等	3	1	4
その他	1	7	5	
そ の 他 内 訳	未定者(b)	1	1	2
	公務員等希望者		3	
	有職者		2	2
	その他		1	1
就職率	97.3%	97.4%	88.2%	

就職率=就職者(a)/就職希望者【就職者(a)+未定者(b)】

2. 平成27年度就職活動状況

平成28年度は、昨年度大きく変わった就職活動のスケジュールが、再び変更となりました。具体的には、昨年度の採用選考活動の開始時期を、従来の4月から8月に4か月繰り下げたのに対し、今年度は2か月繰り上げて6月とする方針に変更されました。大幅な見直しは2年連続となり、学生や教職員も対応を求められました。採用選考活動が8月から6月に繰り上がって学期期間中に行われたことから、授業、試験、留学、教育実習等と重複するなど、従来の問題

点が見られたケースもあります。福島大学としては、企業の採用担当者に対して、必要な配慮を求める依頼を行ったり、就職ガイダンスで学生に説明したりするなどの対応を行っています。

3. COC+事業(ふくしまの未来を担う地域循環型人材育成事業)の開始

福島大学では、平成25年度から、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」として、原子力災害からの地域再生をめざす「ふくしま未来学」を展開してきましたが、平成27年度に文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の採択を受け、新たなプロジェクト「ふくしまの未来を担う地域循環型人材育成の展開」がスタートしました。COC+事業は、「未来を創造できる人材の育成」と「若者の地元定着」に向けた取り組みで、福島大学だけでなく、県内の高等教育機関(4校)、福島県、産業界(13機関)が産学官で連携・協働して取り組みを推進していくことになっています。具体的な目標として、学生の地元就職率を5年間で10%向上させることを掲げています。

COC+事業では、学生が1年次からステップをふんでインターンシップ(就業体験)を経験できるように、キャリア創造科目と連動するプログラムを開発しています。平成28年度は、1年生を対象に「短期インターン」として「ワンデー・インターンシップ・バスツアー」を実施しました。県北・県中地域の22事業所にご協力いただき、6月8日から8月10日までの期間のほぼ毎週水曜日にバスを借り上げて実施しました。入学してまだ日の浅い1年生にとって、普段なかなか見ることができない仕事の現場を直接目で見て触れて体験することは、働くことの具体的なイメージややりがいについて新たな気づきや発見、驚き等がある貴重な機会となったようです。平成29年度は2年生を対象に「中期インターン」を、平成30年度には3年生を対象に「長期インターン」を実施する予定となっています。

一方、福島大学では、事業所の協力を得ながらこれまで10年以上実施してきた単位認定型のインターンシップ制度もあります。この従来からの制度と、COC+事業のインターンシップとの整合性をとることで、学生と事業者双方にとって分かりやすく、良いものとなるように、来年度に向けて改善していく所存です。



平成27年度
共生システム理工学類後援会
会計決算報告

収入内訳				(単位円)
科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
繰越金	8,290,504	8,290,504	0	学生活動助成(36万円×6年)、福利厚生費(18万円×6年)、通信費(3万4千円×6年)等を含む
会費	3,600,000	3,570,000	△30,000	入学者(編入学生を含む)
雑収入	0	1,337	1,337	利息
収入合計	11,890,504	11,861,841	△28,663	

支出内訳				(単位円)
科目	予算額	決算額	比較増減額	備考
事務局運営費				
総会費	10,000	8,430	1,570	資料印刷費等
役員会費	130,000	74,950	55,050	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	600,000	600,000	0	事務職員給与
事務費	40,000	53,886	△13,886	通信費、消耗品費、事務局備品等(事務用PC)
小計	780,000	737,266	42,734	
事業費				
学生活動助成費	600,000	631,000	△31,000	学生の課外活動支援費、表彰制度
就職指導対策費	300,000	274,380	25,620	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	400,000	387,780	12,220	会報年2回発行 印刷費・発送費
福利厚生費	720,000	442,000	278,000	アドバイザーグループ助成 研究室配属学生補助:1,000*180*4
学類運営助成費	100,000	99,970	30	理工学部長会費他学類の対外交渉・応接に要する経費
教育研究助成費	700,000	597,501	102,499	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成:3,000*100、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成:30万
小計	2,820,000	2,432,631	387,369	
予備費	0	39,336	△39,336	学籍異動に伴う会費返還費
支出合計	3,600,000	3,209,233	390,767	

収入合計-支出合計=8,652,608円は平成28年度へ繰越

平成28年度
共生システム理工学類後援会
会計予算

収入内訳				(単位円)
科目	本年度予算額	H27年度予算額	比較増減額	備考
繰越金	8,652,608	8,290,504	362,104	
会費	3,600,000	3,600,000	0	5,000*180名*4学年
雑収入	0	0	0	預金利息等
収入合計	12,252,608	11,890,504	362,104	

支出内訳				(単位円)
科目	本年度予算額	H27年度予算額	比較増減額	備考
事務局運営費				
総会費	10,000	110,000	0	資料印刷費等
役員会費	130,000	130,000	0	理事会会場費、交通費、資料費
人件費	600,000	600,000	0	事務職員給与
事務費	40,000	40,000	0	通信費、消耗品費、事務局備品等
小計	780,000	780,000	0	
事業費				
学生活動助成費	600,000	600,000	0	学生の課外活動支援費、表彰制度:60人程度
就職指導対策費	300,000	300,000	0	企業講演会、企業交流会、親のための就職セミナー補助
後援会報費	400,000	400,000	0	会報年2回発行 発送費を含む
福利厚生費	720,000	720,000	0	教養演習グループ・研究室配属学生助成:1,000円*180名*4年
学類運営助成費	100,000	100,000	0	学類の対外交渉・応接に要する経費
教育研究助成費	700,000	700,000	0	実地指導・実習指導助成、資格試験受験助成:3,000円*150人、学会参加費、研究交流会費、海外演習助成
小計	2,820,000	2,820,000	0	
支出合計	3,600,000	3,600,000	0	
予備費 (繰越金)	8,652,608			学籍異動にともなう会費返還費 学生活動助成:36万円*(1年+2年+3年) 福利厚生費:18万円*(1年+2年+3年) 通信費:3万4千円*(1年+2年+3年)
合計	12,252,608			

平成28年度 福島大学共生システム理工学類 後援会役員

会長 根本 博幸 / 副会長 鈴木 忠継 / 副会長 野地 英男 / 理事 丹野 茂生
 理事 押切竜一郎 / 理事 遊佐 正広 / 理事 佐藤 由美 / 理事 細川 隆弘
 理事 藪内 敬子 / 理事 今野亜紀子 / 理事 佐藤 清春 / 理事 野田 健

福大祭へ
お越しく下さい!

第52回 福大祭 本祭(一般公開)

●場所:福島大学
 ●日時:平成28年10月29日(土)~30日(日)
 ステージ発表・模擬店・子ども向け企画・学外展示・
 お笑いステージなどを企画しています。

■ご意見・ご要望は共生システム理工学類後援会 まで

事務局:〒960-1296 福島市金谷川1 福島大学理工学群共生システム理工学類内 TEL&FAX 024-548-8176

学類のHPで様々な教育・研究活動をご覧ください。 <http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/>